

第二回松山市文化施設の在り方検討会(概要)

- 開催日時:令和7年 12 月 23 日(月)13:00~14:30
- 開催場所:KH三番町プレイス 3階会議室
- 出席者:土居英雄委員、本田元広委員、郡司島宏美委員、池田慈委員、丹下正英委員、羽鳥剛史委員、淡野寧彦委員、前田眞委員、森隆一郎委員
中矢斉オブザーバー、家串正治オブザーバー、矢野博朗オブザーバー
- 調査業務委託受託業者:株式会社シアターワークショップ
- 議題等:○出席者の紹介
○報告事項
 - ・文化施設に関する国の法令や市の計画について
 - ・文化施設の在り方に係る調査業務委託について○松山市民会館の閉館時期及び文化施設の在り方に関する意見交換

■会議概要

1 開会

2 報告事項

- (1)文化施設に関する国の法令や市の計画について
- (2)文化施設の在り方に係る調査業務委託について

○資料に基づいて事務局から(1)~(2)について報告。委員から次の意見があった。

- ・(劇場法で、地方公共団体の役割として)「地域の特性に応じた施策の策定」という文言がある。今までの実績だけでなく、将来ビジョンを含め、松山市の文化の在り様や、特性も踏まえて考えてもらいたい。
- ・調査する際は、委託契約上、可能な範囲で、研究者や有識者にヒアリングを行うなど、今後の文化施設に何が必要かも調べられると良い。

3 松山市民会館の閉館時期及び文化施設の在り方に関する意見交換

○以降は進行役を委員に依頼し、意見交換を行った。

○まず、前回5つのポイントで議論された内容を事務局から振り返って説明した。

(前回議論した5つのポイント)

1. 代替施設の整備方針を今年度から考えていくことについて
2. 示された3案以外の閉館時期の柔軟な検討について
3. 空白期間の負担軽減について
4. 利用者への丁寧なヒアリングについて
5. まちづくりの観点で現市民会館跡地の文化的な利用を考えていくことについて

(参考:前回の検討会で示された閉館時期の3案)

- ①R8 年度まで使用…5,800 万円で通常の設定備メンテナンスを行う。全館休館はなし。
- ②R12 年度まで使用…約 7.4 億円で通常の設定備メンテナンスと空調機器の追加設置。
中ホールのみ R8 年度末で休館。

③R18 年度まで使用…約 29.6 億円で大規模改修する。約 1 年半、全館休館が必要。

○今後の議論の進め方について以下の意見が交わされた。

委 員 5つのポイントの様々な意見を総合的に考えていく必要がある一方、全てを混在させ同時に議論するとまとまらない。「5.現市民会館跡地の文化的な利用」は、一旦本日の議論から外し、代替施設の整備方針と空白期間をどうするかを考慮し、閉館時期を考えていく方向でいかがか。

委 員 前回、新しい機能を持つ施設がいつ頃建つのか見通しが立たないまま、閉館時期だけを先に考えるのは難しいという意見があった。モデルプランを来年度に示すと言っても、代替の機能や規模、これからの時代に必要とされる施設を新しく考え、そうした施設を作る場合、設計から完成まで大体どのぐらいかかるのか。

委 員 一般的に劇場ホールは、構想・計画・仮設計・実施設計の4工程を経て建設する。仮に4工程が各1年ずつ、建設に2年半、開館準備に半年とすると、早くても7年程度かかり、リサーチに時間をかけるとさらに延びる。

委 員 基本構想がいつできるのかが分かれば、開館時期の見通しが立てられるのでは。

委 員 基本構想が一番大事になる。どういう施設がいるのかを意識して話し合う必要がある。1年では足りないかもしれないが、モデルプランと同時に進めることで短縮できるかもしれない。

委 員 この点について、事務局の考えはいかがか。

事務局 来年度にモデルプランを作成する予定だが、今後の議論の内容によって、モデルプランから基本構想へ円滑に進めていけるよう協力いただきたい。

委 員 来年度モデルプランを事務局で検討して、2年以内に基本構想を策定し、7年後の代替施設の開館に向けて努力していく前提で、年度内に閉館時期を決める方向で議論を進めるのでいかがか。

○これに対し、委員から「いずれにしろ空白期間はできてしまう。その空白期間を短くするのであれば、②案と思うが、どこに、どんな施設を作るという構想の中身を明確にしてから、閉館時期を考えるべきではないか。」という意見が挙がる中、閉館時期について次のような議論が進んだ。

委 員 おそらく予算が潤沢にあるわけではない中、②案、③案で改修にお金をかけても壁の中の見えない配管などの故障のリスクがある。そのため、①案かと思うが、利用者の準備や代替の検討期間を考えると、例えばR9年度末まで閉館を延長する考え方もあっていいのでは。

委 員 R8年度までなら心配ないというのなら、R8年度閉館を目安とし、代替施設を利用するなど辛抱しながら構想を前に進めるのが良いと思う。R8年度閉館がもう少し延ばせるかを事務局も考えるといいのでは。

委 員 同じく、R8年度末閉館は利用者側からしたら厳しい。①案をR9年度まで延長できれば、基本構想などを進めることができると思う。

- 委員 先日、高校の吹奏楽部員が、市民会館の代替施設の必要性を発表した中で、舞台の広さや搬出入経路、練習や待機場所、客席の観点から、吹奏楽コンクールは、大ホールに代わる施設は無いと聞いた。大ホールだけでも長く使い、R9年度末に延ばし、その間に構想を進め、市民に説明する。また、②案は、中ホールは厳しいとのことだが、大ホールと小ホールは長く使えるのではと捉えている。
- 委員 松山市の文化本位と考えるため、空白期間を短く、改修して長く使う③案が適しているのではと思う。巨額の経費は文化への投資と考える。
- 委員 建設費高騰や労働者を雇えない、あるいは長時間労働させられないという中で、建設計画が長期化する可能性を懸念している。R18年度まで現市民会館を長く使えるのは、今の我々にとって重要なことだが、実際には、R18時点で代替施設がまだ使えないこともありうる。基本構想を迅速に作るのを前提に、R9年度末閉館が現実的ではないか。
- 委員 R9年度末を検討するのは良いが、ずるずると延びて、いつまでも決まらないのは避けるべき。
- 委員 様々な意見が出たが、市はR9年度まで延長する余地はあるのか。また、コストはどのくらいになるか分かるか。
- 事務局 ①案の閉館時期を延ばす意見は、市の技術職員と相談しており、実現可能かは、次回提示できる見込み。様々な意見を頂いた中で、空白期間の支援策なども総合的に考えて、よりベターな閉館時期を松山市として決めていきたい。
- 委員 一番重要なのは、文化活動を継続したい団体に活動の場を設定し、空白期間で松山市の文化活動を停滞させないこと。
- 委員 空白期間の支援策が重要。市や民間でこういったサポートがあればいいという知恵の絞り方を議論していく必要がある。
- 事務局 既存施設の役割分担や、既存施設の設備を充実させ対応していくのを想定しており、ご意見を頂きたい。
- 委員 先ほど高校生の例が出たが、文化施設ができたのは、長い歴史で見れば最近で、それまで文化は施設がない中で、工夫していく過程で育まれてきた。松山市の文化が今後発展していくためには、子どもたちも含めて市民が、文化施設を使う・消費してだけでなく、文化と一緒に作る側として工夫していくことも起こってほしいと感じた。その際は、市が代替施設を官民間問わず調べて提示するなど、サポートは必要である。
- 委員 閉館した「シアターねこ」ができる前からやりくりして活動していた団体は、閉館後も工夫して何とか活動を続けているが、「シアターねこ」があることが当たり前だった団体は継続が難しくなっている。空白期間にサポートする中で、利用団体にもある程度自立してもらい、場所と一緒に作っていく心持ちが大切。
- 委員 活動をファシリテート、コーディネートする中間支援の組織や人は必要。その人材育成や組織運営の費用などを継続的に支援できる環境を作らなければ

難しいと考える。

○その他、次のような意見があった。

委員 国の法律で、人口規模に対し、どの規模のホールがいくつ必要といった具体的数値はないが、法令から松山市にこれだけの施設が必要などを明確に示せないか。

事務局 今後、委託調査で国の法律を考慮し施設の状況を整理する。

委員 大ホールの音響の良さは、単なる設備の充実だけではなく、長期間にわたって評価が高まり固まった、松山市の文化の伝統になっている。空白期間の損失あるいは人材の継承に影響する危惧がある。音響面は外さず検討してほしい。

○意見交換で挙げた内容をまとめ、次回までに事務局で検討する事項を整理した。

(まとめ概要)文化を絶やさないという大目標は大切。その上で、市民が逆境の中でも諦めない、失望させない取り組みをしながら文化が育まれていくという建設的な考え方が基本的なビジョンとなる。

(次回までの事務局検討事項)

1点目:R9年度まで閉館延長の可能性について具体的に検討すること。

2点目:空白期間の負担軽減策について、取組例を示すこと。

3点目:代替施設を作るプロセスについて具体的なフローを示すこと。

4点目:法令を踏まえた具体的な代替施設に求められる条件を示すこと。次回までの提示が難しい場合も、委託調査の中でどのように検討していくかを示すこと。

4 その他

○次回の検討会開催の案内。

5 閉会